

第1回一宮町まち・ひと・しごと創生有識者会議議事録

日 時：令和6年12月26日（木）

午前10時00分～

場 所：一宮町役場4階 議員控室

1. 開 会

本日は公私ともご多忙なところご参集いただきまして、誠にありがとうございます。本会議の進行を務めさせていただきます。一宮町企画広報課鶴澤と申します。どうぞよろしくお願いたします。

本日の会議には、委員総数12名中、10名の委員の皆様にご出席をいただいております。一宮町商工会の秦委員と一宮小学校の岡田委員につきましては、所用により欠席となります。

ここで事務局の紹介をさせていただきます。馬淵町長、大場副町長、竹之内教育長、渡邊企画広報課長、田中主幹、宮本副主査です。

2. 委嘱書の交付

お手元に委嘱書がございますのでご確認ください。また、委員の皆様方のご紹介につきましては、名簿にて代えさせていただきます。また、議題の中でご意見やご感想を頂戴する予定ですので、その際、自己紹介と併せてお願いします。

3. 議 題

本日の議題に入らせていただきます。進行について、議題（1）の会長・副会長の選出についてお諮りします。会長・副会長の選出について、何か良い案がございますか。

委員：事務局一任。

ただいま事務局一任という声ございましたので、事務局より事務局案を述べさせていただきます。会長につきましては、これまでも一宮町に数々のご協力をいただいております。本町にご精通されております関谷昇先生にお願いしたいと考えました。また、副会長につきましては、これまでも一宮町議会の総務経済常任委員長にお願いしていただいたので、引き続き総務常任委員長の川城委員にお願いしたいと考えましたが、いかがでしょうか。

委員：異議なし。

ありがとうございました。意義なしとの声をいただきましたので、会長に関谷委員、また副会長には川城委員を選出させていただきます。これ以降の進行につきましては、一宮町まち・ひと・しごと有識者会議設置要項第6条に基づき、会長となりました関谷会長により議長として進行をお願いいたします。関谷会長、議長席をお願いいたします。

議長：千葉大学の関谷と申します。前年に引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

有識者会議ということで、それぞれの立場から総合戦略についてのご意見をいただき、今後に反映していくものです。この後、事務局から説明がありますけれども、忌憚のないご意見をいただきたいと思います。

それでは、議題(2)第2期「一宮町まち・ひと・しごと創生総合戦略」(令和5年度分)の効果検証について、事務局から説明をお願いいたします。

事務局：それでは第2期「一宮町まち・ひと・しごと創生総合戦略」の令和5年度分、2年目になります。こちらの効果検証につきましてご説明をさせていただきます。効果検証につきましては、町長、副町長、教育長同席のもと、各課による庁内ヒアリングを令和6年の7月4日、16日、17日、19日、31日の5日間、実施いたしました。

本計画の施策は、現在、国の地方創生交付金は活用しておりませんが、それ以外の各種補助金や町単費を活用した中で様々な事業を展開しております。検証期間ですが、令和5年4月1日から令和6年3月31日までの1年間で、検証項目は、内容実績、今後の課題・対策、評価の3区分とし、評価については、A・B・C・Dの4段階で評価しております。評価の内容ですが、Aは計画以上に進捗しており、継続して推進する。Bはほぼ計画通り進捗しており、このまま継続して推進する。Cは目標をやや下回る見込みであり、要因の分析と見直しの要否を検討する。Dは目標を大きく下回る見込みであり、要因の分析と見直しを要するとしております。

KPI重要業績評価指標の令和5年度実績値は、3月末までの数値が確定している場合は確定値で記載しております。また、数値ではなく定性的に実績値を表記している箇所もございます。それでは、宮本より本計画の重点戦略の概要と検証結果についてご説明をいたします。

私の方からは、委員の皆様方に事前にお配りさせていただきました、A3の資料に沿って主なものについてご説明させていただきます。着座にて説明させていただきます。

資料の1枚目をご覧ください。左の上に基本目標1と書いてございます。基本目標1「オリンピックレガシーとしてのサーフォノミクスの拡大」ということで、サーフォノミクスのさらなる進化を通じ、サーフィンを一時来訪者の増加のきっかけとし、ヒトやモノの流れを変えることで、サーフストリート周辺だけでなく経済効果を町内全体へ波及させます。また、サーフィンをする住民のみならず、サーフィンをしない住民の生活にも資する取り組みを行います。ということで、基本目標1では6つの事業展開をしております。評価は、右側にある令和5年度のところになりますが、1事業がA、その他5事業をCと評価いたしました。

主なものとして、①のサーフィンを軸とした新たな人の流れの創出では、釣ヶ崎海岸に新たな拠点を創り、観光案内やレンタサイクルなどを活用することにより町内の回遊性や滞在期間を延ばし、駅周辺商店街と海岸部の人の流れを創出することを事業内容としています。

実績は、サイクリングマップと町の観光ガイドブックを改訂し、レンタサイクルのルートに掲載しました。また、観光案内所内に農産物の自動販売機を設置し誘客を図ると

ともに、地域製品のPRを行いました。なお、レンタサイクルの実績としては、駅前では2,109台、前年度は2,118台とほぼ横ばいです。釣ヶ崎では89台、前年度38台という結果となりました。レンタサイクルの利用を令和4年度と比較すると釣ヶ崎でのレンタサイクル利用者数は、2.7倍となりました。

今後の課題・対策は、釣ヶ崎観光案内所のレンタサイクル利用者は、前年度と比較し2.7倍の増となりましたが、まだまだ思うように伸びていない状況です。需要を把握するとともに今後の活用方法を検討します。また、インバウンド推進を図るため外国人観光案内所登録(JNTO認定)を令和6年度中に実施します。この外国人観光案内所登録は、外国人対応が可能な観光案所ということで、翻訳機や英語版観光マップなどの設置を行い外国人の方々にお立ち寄りいただくためのものです。

⑤の空き家バンクの設立では、空き家の有効活用による良好な生活環境の保全及び移住・定住の促進のための宅地供給を図るため、空き家バンク制度を設立することを事業内容としています。

実績は、令和4年度から一宮町空き家バンク制度を設立運用しており、令和5年度までの登録実績は3件、契約実績2件となっています。なお、KPIにつきましては、計画期間前倒しで目標達成したこともありAとしました。

今後の課題・対策は、納税通知書を発送する際に空き家バンク制度のチラシも同封するなどの周知を図り登録につなげました。引き続き周知を図ることにより、さらに登録を促進していきます。

⑥の世界サーフィン保護区認定では、WSRのサーフィン保護区認定を目指し、一宮海岸の魅力を世界中に発信していくことを事業内容としています。

実績は、サーフィン保護区認定に関連する団体へ本事業への取り組み内容や賛同への呼びかけ、意見聴取を行いました。また、令和5年7月に開催した一宮サーフィンフェスティバルを活用し、保護区への取り組みに対する周知や賛同への活動を行いました。

今後の課題・対策は、住民や関係団体に広く周知し理解を得るために核となる組織体制が必要です。引き続き、賛同への理解と組織体制の構築に努めます。

評価は、令和5年度はCとしておりますが、令和6年度は関係団体キーパーソンによるローカルコーディネーターといった応援体制も確立され、今後の活動について意見交換などが盛んに行われ、徐々に活動も活発化しています。今年の11月10日には、一宮町魅力発表会と題し、各種団体、ローカルキーパーソンと町民によるディスカッション等を実施してございまして、更に申請に向けた活動を展開していく予定になっています。

続きまして、資料の2枚目をご覧ください。基本目標2「パワースポット一宮の力の源としての農業と各種産業の拡大」です。人口減少の抑制のため、働く場の確保が求められています。農業、商工業、飲食業等、本町の特徴的な産業に係る中小企業事業者の支援及び外国人や女性、非正規雇用者、高齢者等、様々な立場の人々が活躍できる場の創出を通じて、強い産業の実現とあらゆる人々が活躍できる環境づくりを行います。ということで、基本目標2では5つの事業を展開しております。評価は、2事業をA、3事業をBといたしました。

②の先端技術を導入した農業の実現では、ドローンを活用した病虫害防除や生育管理、ICT を活用した養液栽培や環境装置等の先端技術の導入によって、スマート農業を推進し、作業効率や省力化を図り、高品質な農産物の安定生産を推進することを事業内容としています。

実績は、水稻防除においてドローン散布を導入し、生育状況に合わせた時期に農薬散布が可能となりました。また、農薬においても非ネオニコチノイド系を使用しました。効果的に散布したことにより、病虫害被害の減少に寄与しました。散布面積については、143.5ha となりました。

今後の課題・対策は、令和6年度は農家へのICT導入補助制度を拡充することが出来たのでその周知を行います。また、ICT機械等の効果的な使用について、ほ場整備等の検討を行います。ドローンを導入したことにより、適切な時期に散布することが可能となり農薬飛散も軽減されました。また、非ネオニコチノイド系の農薬に変更し環境に配慮出来たことからA評価としました。

④6次産業化の推進では、地域産業活性化のため販売ルートの拡大を支援するとともに、特産物や農産物加工品等のブランド化や農業の6次産業化への展開も視野に入れた活力ある農業の振興を図ることを事業内容としています。

実績は、釣ヶ崎観光案内所に設置した農産物等用自動販売機について、トマト、梨、米、米粉、さつまいも、蜂蜜等の多種多様な商品を提供することが出来ました。また、様々な販売ルート確保や6次産業商品のため、関係機関からの情報収集も進めました。

今後の課題・対策は、販売ルートの確保についてウェブサイトを活用している農家も増加していることから継続的な支援を図り、6次産業商品について補助事業を把握しながら、経営拡大に積極的な農家に対して適切な支援を進めます。

⑤自然豊かで多様性に富んだ環境保全では、恵まれた里山や海岸の景観を保全するために、森林環境贈与税を活用した里山整備を進めるとともに、住民による環境保全の活動を推進し、生物多様性戦略の策定を目指すことを事業内容としています。

実績は、生物文化多様性計画の策定に向け、素案作りに取り組みました。令和4年度に引き続き、森林環境贈与税を活用し、洞庭湖周辺の森林整備を行いました。また、同税に基づいた市川市との協定を締結し、この協定に基づき憩いの森の整備を行い、エリアの包括的な里山整備を推進しました。

今後の課題・対策は、生物文化多様性計画に係る策定委員会の立ち上げ、策定作業に向けた取り組みなどを進めます。令和6年度中に計画案が完成し、パブリックコメントを今後実施していく予定ですので、順調に進捗している状況です。森林整備に関しましては、継続的な住民協働及び人流増加が課題です。住民団体と連携を強化しながら草刈等の整備を推進します。また、市川市との協議を深め、イベントを通して人流増加を図ります。

続きまして、資料の3枚目をご覧ください。こちらは基本目標3「暮らしの充実を上げるための子育て・教育・文化の増進」です。本町ならではのライフスタイルの維持や子育て・教育環境の充実を通じて、ファミリー世帯の移住を促進するとともに、一時来

訪者を定住に結びつけます。また、就学などで一度町を出ても、また戻っていきたいと思えるまちづくりに取り組みます。ということで、基本目標3では7つの事業を展開しております。評価としましては、6事業がB、1事業をDと評価いたしました。

③アフターコロナの新たな働き方の促進では、デジタル化におけるDXを視野に入れた働き方を促進します。また、ワーケーションが可能な地域づくりを行うために、宿泊施設やカフェ等の各種施設の整備促進を図ります。行政機関の日常的な業務にICTを導入し、各種証明書の交付を検討し、住民の利便性向上や業務の効率化を図り、住民サービスの向上に努めることを事業内容としています。

実績は、令和5年度時点で、デジタル田園都市国家都市構想交付金を活用した事業は行っておりませんが、今後活用する可能性も踏まえ、県が開催する現地説明会などに参加し制度の概要や総合戦略改定に関する理解を深めているところです。また、令和4年度末から導入したコンビニエンスストア等での各種証明書の交付サービスの利用について、ホームページや広報で周知を行いました。令和5年度の発行実績としましては以下のとおりです。

【令和5年度発行実績】

- ・住民票 476件
- ・印鑑証明書 444件
- ・税証明書 31件

また、自治体が使用する情報システムに対して、一定の基準や規格を設け、統一的な取扱いを促進することをデジタル庁が主となって進めている、標準準拠システムへの移行につきましては、現行システムとの差異の洗い出しを一部残し完了しました。令和5年10月から各種証明書の交付の手数料や施設使用料等の支払いについて、役場内でのクレジットカードや電子マネーによるキャッシュレス決済を導入しています。利用率に関しては10.8%で、各課での実績は資料に記載させていただいているとおりです。

課題・対策は、デジタル田園都市国家都市構想の中で、本町が取り組むべき具体的内容について、次期総合戦略に反映させるための活用出来る補助金の調査・研究、関係課との調整が必要となります。また、各種証明書の交付サービスは、引き続き、町民の利便性向上を図るため周知を行います。また、標準準拠システムへの移行は、令和7年度中の移行に向け引き続き取り組みます。公金収納事務についても、引き続き町民の利便性向上や効率化に努めます。

⑤新たな教育の促進では、児童生徒の確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和を重視した「生きる力」の育成を図るとともに、地域の文化や歴史に触れる活動を通して、町民としての誇りや郷土愛を大切に育む心を育てます。また、GIGAスクール構想のもと、ICT教育や情報モラル教育のさらなる充実を図ることを授業内容としています。

実績は、各小学校の総合的な学習の時間では、「まちたんけん」や「まちづくりプロジェクト」を実施し、自分自身が住んでいる町で働く人々の様子や豊かな自然、文化に直接触れることで、児童たちの郷土愛や誇りを育むきっかけとなりました。また、創立150周年を迎えた一宮小学校では、記念事業として町や学校の歴史を研究し、発表する集会

を開催するとともに、地域の方と交流する時間を設けました。ICT 教育や情報モラル教育として、各学校においてタブレットや電子黒板を活用した授業展開を実施するとともに、保護者も参加する集会等において、インターネットの危険性等の講演や情報交換を行い、学校だけでなく、各家庭においても、ネットトラブルやいじめについて理解を深める機会を設けました。一宮中学校は、昭和 33 年の開校以来、多種多様な研究指定校として、時代によって変化する様々な教育課題への研究を実践し、その成果を町内外の教育関係者に発表する等、県の教育の進展に大きく寄与したことが評価され、千葉県教育功労者表彰（団体）を受賞しました。

課題・対策は、引き続き児童生徒の生きる力の育成を図るとともに地域の伝統文化の継承や共生社会の形成、ICT 教育等の推進を図ります。令和 6 年度には町内全ての小中学校にコミュニティ・スクールを導入し、保護者、地域、学校が一体となって子どもたちの成長を支える体制を構築するとともに、新たな取り組みとして一宮町架け橋プログラムを充実させ、学びや生活基盤をつくる幼児教育と小学校の円滑な接続を目指します。

最後に資料 4 枚目をご覧ください。基本目標 4「暮らしの安全安心を確保するための防災、福祉、医療の増進」です。地域医療体制の整備や万全な感染症対策、また激甚化する自然災害への対策を通じて、町民の安全な暮らしを確保します。ということで、8つの事業を展開しております。評価としましては、2 事業が A、4 事業が B、2 事業を C と評価いたしました。

④原地区農業集落排水施設改修では、原地区農業集落排水の機能維持を図るため、老朽化対策を実施することを事業内容としています。

実績は、令和 5 年度は機械・電気設備製作工事に着手しました。当初計画では、年度内に工事を完了する予定でしたが、世界情勢の影響により部材入荷等が遅延し、製作期間が長期化することから、工事期間を令和 7 年 3 月まで延長しました。

今後の課題・対策は、世界情勢等の動向に注視しつつ、計画期間内の事業完了を目指し、改修事業を推進します。

⑤中央ポンプ場改修事業では、中央ポンプ場の機能維持を図るため、老朽化対策を実施することを事業内容としています。

実績は、ストックマネジメント計画に基づき、国交付金を活用しながら計画的な改修を実施しています。

今後の課題・対策は、令和 8 年度末までに計画している大規模改修における維持管理においても、ストックマネジメント計画を作成し、適切な施設管理を実施します。

以上、主なものになりますが、説明を終わらせていただきます。よろしく願いいたします。

議長：事務局の説明が終わりました。本日は、それぞれの分野でご出席いただいていると思います。最初に所属とお名前をお知らせいただいた上で、只今の説明についてのご意見や感想、各分野における現在の動向などを頂戴できればと思います。

A 委員：去年4月に着任いたしましたので、今回2回目の参加になります。着任するまでは訪れたことがない町でしたが、自然豊かな魅力に取りつかれまして今では地域貢献に協力できるよう邁進しているところでございます。

銀行ですので、町内のご融資の状況をまずご紹介できればと思っております。地方創生にも力をいれておりまして、地域の発展に寄与する案件に対しては、私の責任の元、積極的にご融資に対応させていただいています。町内での新築の設備投資案件については、事業性融資の実行額、住宅ローンを除いた事業性の融資だけで今年1年間で5億円以上実行させていただいています。中古の購入を含めると更に増えている状況で、内訳としては宿泊施設の建設が2億6千7百万円、賃貸物件建設が1億3千万円、住宅の分譲資金が6千3百万円、店舗建設が4千百万円といった内訳となっています。宿泊施設に関しては、宿泊施設自体がだいぶ増えてきている印象は受けていて、限られた需要を食い合いにならないよう、一宮に来たいと思っている方にたくさん来ていただき、その中でも競争が激しくなってしまうので、来訪者を増やすということが重要だなと思えます。事務局から千葉銀行の地方創生の取組を紹介してほしいとのことでしたので、お話しさせていただきます。地方創生を盛り上げる取組として、クラウドファンディングとかECサイトを扱う「ちばぎん商店」という地域商社を立ち上げておりまして、設立の目的は、地域の優れた商品ですとかサービスの販路開拓やマーケティング支援を通じて地域内での経済循環システムを構築し、お客様や地域の持続的な発展に貢献することを目的に活動しています。一宮町では遊具建設のクラウドファンディングがあったかと思いますが、それとは少し違い、ステップ1として、クラウドファンディングを通じて新商品やサービスの開発を一緒に行っていきます。それをPRですとかテストマーケティングのステップとして捉えておりまして、その次の段階として、ステップ2でECサイトを通じてステップ1で生み出した新商品の継続販売ですとかその事業者のもっている既存商品の販売を行っていく。ここは、コアファンの獲得ですとかデジタル販路の開拓といったステップになります。ステップ3として、ブランド化を確立して販路を広げていく。これら3つのステップを通じて新しい商品のアイデアやビジネスを成長させていく意欲を醸成していただいて、ステップ1に戻りそれを繰り返していくサイクルを作るイメージになります。実際にクラウドファンディングとしてはこれまで200以上、総支援額としては1億円以上集めた状況です。過去、自治体と連携したイベントとしては、多古町の多古米とコラボして「多古米おかず選手権」や現在進めている大型事業として「たすきプロジェクト」では、小湊鉄道、いすみ鉄道とコラボしてその沿線の事業者と10個のクラウドファンディングを行い、マルシェ等を企画している。このような企画を一宮町でも出来たらと考えている。一宮町の事例としては、石井農園さんのトマトやメロンをテーマとしたクラウドファンディングを行ってきまして、農家直送ならではの新鮮野菜やバランスの良い美味しさをみんなに知ってもらいたいという思いを実現させたいといったことで、希望額に対し約150%の支援が集まった実績があります。ECサイトについては、利用者の声を分析すると、購入の決め手は何ですかといった質問に対しては、地元企業や生産者を応援したいといった理由が一番で77%、価格の安さや配送ス

ピードを競っている大手の EC サイトとは異なっていて、千葉を応援できるサイトというところが特徴になっています。私としても、一宮はサーフィンで有名な町ですが、今は寒い時期ですのでサーフィンだけではなく、色々な観光資源とのコラボや町とも連携して地域を盛り上げていきたいと思えます。

質問として、基本目標 1①はレンタサイクルを一つの指標にして検証を行っています。サーフインは年間どれ位の方がやっていて、そのうちの何人位が町外から来ているのかが素朴な疑問としてあり、町外の方がレンタサイクルを使ってサーフインに行くのか、車で来ているのかどうかいうところで、大事なのは町内での滞在時間をなるべく長くして、いかに町の中にお金を落としてもらい帰ってもらうことが重要かと思えますので、それがレンタサイクルの利用者数というものを指標にして、因果関係的にずれは起きないのかなというところが気になった点です。

レンタサイクルのマップも作っているとのことですので、実際に利用した方がどのような動きをして、どのお店に行ったかが分かるようなスタンプラリー等があっても良いと思えます。

B 委員: 私はこの 4 月に着任をしましたので、会議は初めての参加という形になります。まず質問の前に、ハローワークでの雇用失業情勢についてお話させていただければと思えます。本日複数の資料をお持ちしました。最近の雇用失業情勢は、直近の発表されているものは令和 6 年 10 月分で、明日 11 月分が発表になると思えますが、千葉管内で申し上げますと、有効求人倍率は 1 倍を超えまして、1.02 倍とで、0.01 ポイント前月から上がっています。千葉労働局の基調判断としては、雇用失業情勢の持ち直しの動きがあるが、動きに弱さが見られる。このような傾向が続いている状況です。有効求人倍率の千葉労働局全体では 1.02 倍ということで上昇してはいますが、茂原のハローワークだけに関して申し上げますと、1 市 5 町 1 村を管轄しておりますが、残念なことに有効求人倍率は 0.79 倍という形になっており、1 倍を切っています。千葉労働局の中で言いますと、残念ながらワースト 1 の位置にいます。有効求人倍率がすなわち産業とリンクしていることではないですが、単純に求人に対する有効求人の割合ということになると、0.79 倍ということですので、1 人に 1 件ない現状が続いているという形です。この地域は、我々の感覚では生産業が主な事業になっていますが、やはり後継者問題等もあり、高齢化が進んでいます。どの事業所も訪問すると、やはり人手不足というようなことは言われております。ハローワークの分析で言いますと、どうしても申込が高齢者の方が最近の傾向としては増えている関係がありまして、事業所の方が求められているような 20 代、30 代、40 代までの方のご利用の方が減少しているという実態があり、就職や紹介に結びついていない現状です。千葉労働局につきましては、今年度から事業者側へのサービスの部分で事業所への訪問活動、求人活動を通して利用サービスを図るところを重視していく方針となっています。以上説明になります。

質問については、関係するところは基本目標 2 になるかと思えます。実際に我々の方で農業企業というのは、取り扱うケースが少ないものですが、生産技術を導入した農業

の実現だとか 6 次産業化の推進ということについて、色々と期待されておりますので、今後の展望や内容を精査させていただいて、一宮町の産業に寄与させていただくこと、または事業者を訪問する際に利用させていただければと思いますので、特段質問はございません。

C 委員：昨年に引き続き 2 回目の参加になります。基本目標 1 ⑥世界サーフィン保護区認定についてですが、町が保護区認定に向けてどういうことをやっているのか、認定されることによってどういう効果があるのかということ町民に広くお伝えすることが必要だと思うが、周知の方法として今どういうことをやっていて、これから加えてどういうことをお考えなのか。あと関連して、中央公民館の建て替えの事業を行っていると思いますが、検討委員会の報告書を見ると複合施設を新築でという話になっていたが、例えばその新しく作る施設の中で、一宮のサーフィン文化を発信するようなものも検討されていくのかなどそのあたりを伺いたいと思います。

D 委員：観光の側面からお話しさせていただきます。基本目標 1 の下段、重要業績評価指数 (KPI) では、観光案内所の利用者数ですが釣ヶ崎観光案内所の利用者数は我々が考えている以上の利用がありました。やはりサーフィンやドライブの観光客が一定数いると推察できます。対して、駅前観光案内所の利用者数は、現状 8 割方となっており、今後、目標を達成するには JR の利用者を伸ばせるかが鍵になると考えています。東京 23 区、高齢者等を注視いたしまして、一定の来訪客を一宮町で確保できれば、人口増にも繋がるのではないかと、そのように考えながら今後対応していきたいと思っています。次に、世界サーフィン保護区認定は、先月、魅力発表会が開催され、いよいよ認定を目指す一步を踏み出したわけでございます。一宮町を世界に発信する一手として観光面からも期待するところですが、これにはメディアや報道、我々も協力していきたいと考えます。また、上総十二社祭りや納涼花火大会等の観光イベントについては、イベント参加数はコロナ前よりも盛会になってきているようです。その点は評価できるのではないかと思います。観光地曳網に関しましては、皆さんご存知のように気候の温暖化により海水温度が上がり、漁業の種類もだいぶ変わってきています。今後、どのような対応をして観光に繋げていくかも考えるところです。最後に基本目標 4 ですが、防災面についてデジタル化の推進やドローンによる避難広報システムの導入を進めており、町外から来訪される観光客やサーファーの方の安全を確保されている点は、評価できるのではないかと思います。今後、まちづくりの課題としては、インバウンドへの取り組みが必要だと思います。現在、京都・浅草等には海外からの来訪者は増大しております。オーバーツーリズムの問題が起こっていますが、この来訪者を本町に向けることが出来ないかと私が考えている重要な問題であります。来訪者数を伸ばせるように計画を立てていくか。JR 関係の方々とも相談して、観光客が増えるように努力したいと思っています。

E 委員：この資料をいただいた基本目標 1 から 4 までの 26 の事業について、私としては特に意見というのは持ち合わせておりません。というのは、これは全部やらなくてはいけないことばかりが書かれてあって、当然のこととして行政の方も取り組んでおられると理解しています。ただ、今 2 期が進行中ですが 3 期があるとして言わせていただくと、第 1 期の総合戦略もそうですけど約 10 年近くですが、一宮町という形の何かがあったとして、力を入れる部分というのが、外見を磨く、きれいに見せる、いいように見せる、そういう努力はされていますが、逆に一宮町の中身というものに対して、中を磨いて光らせようという努力は非常に少ないのではないかなと思います。仮に 3 期、4 期、5 期と総合戦略という形が続くのであれば、もう少し中身というものに目を向けて、事業というものを展開していければと思っています。

一つずつの事業に評価はしませんが、町で暮らしていて、色々な仕事も行っていきますが、この 26 の事業について共通して言えるのは、夢がないなど、当たり前だなということが非常に強くて、職員の方々もそうだと思いますけど、やっていて面白くないかなという、極端に言えば。計画立てて実行して形になっていく。その過程が楽しいものを作っていく。その一つが 1 期から始まりましたサーフォノミクスということだったのでしょうけど、残念ながら私の印象ではサーフォノミクスは失敗しているのではないかなと思います。第 2 期にもオリンピックレガシーとしてのサーフォノミクスの拡大というのがあった。実際中身を見るとあくまでもお題目であって、これを住民が受け取る時は右の耳から左の耳といった感じではないかなと思います。例えば、サーフィンについて言うと、釣ヶ崎が日本のサーフィンのメッカみたいな言われ方をしていますが、確かにそういう評価はあり得ると思います。ですが、日常で住民がサーフィンを見に海に行くかという、その目的のためだけに海に行くのは少ないと思います。自転車にも乗っていませんけど、自転車で釣ヶ崎まで行っても何もやることがない。観光案内所がありますが、そこでコーヒーの一杯も飲めるかという、それもできない。釣ヶ崎から一宮海岸までが、やっぱり公園化していかなければ、このオリンピックレガシーとしてのサーフォノミクスの拡大という、お題目通りの海にはなっていない。住民の暮らしの中にサーフィンが入ってこないという気がする、そういう視点から見直していければ良いのではないかな。個人的にどうすればいいかというのを今取り組んでいて、まだ出来上がっていませんが色々肉付けしていこうかなとは思っています。一宮は、住んでいて決して悪い町じゃないし、良い町だなど思うのですが、近年特に魅力が失われている気がしていて、どうすれば良いのかということで、仮に 3 期目の総合戦略があるとすれば、その時に、住民目線から発表させていただきたいと思っています。

F 委員：今回 2 回目の参加です。一宮町には住んで 7、8 年くらい経ちますが、現在は子どもが 5 歳と 2 歳がいます、子育てをしています。また、健康づくりに関する仕事をしており、子育て支援とか、健康づくりに関するところが気になって、色々町の情報を見させてもらっている状況です。先ほど説明いただいた内容の中で、気になったところをお話しさせていただきます。一宮町にさらに住みたく住み続けたい町にするために

というところで、基本目標 3①住民目線の情報発信のところ、インスタグラムとか SNS とか情報ツールを皆さん見ると思いますし、情報収集は町役場がやっている時間もやっていない時間もいつでもできるというのがすごくメリットがあると思います。広報紙の充実ということで、力を入れてやっていると記載されていますが、広報紙に関しては見やすくなっていると感じるところはあります。併せてホームページも内容を充実させていただきたいと思います。子どもの健診の情報は広報紙や対象であればお手紙もいただいています。自分が気になるときに見たいので、ホームページの内容に力を入れていただきたいというのは日々感じます。それに関連して、町のホームページの閲覧数が KPI のところに出ていて、数値としての評価は上っているというのが分かりますが、回数ももちろん大事ですけど、質も見ても良いと思います。自分が見たいと思った情報がこれで解決できたのかとか、その辺の評価も見ても良いのではと思いました。

基本目標⑦健康寿命プロジェクトのところ、健康ポイント事業を開始したが、登録者数が 24 人と少ないというところで、高齢者の方が健康づくりに取り組むのは確かに難しいと思いますが、健康寿命を伸ばすために若い時期からの健康づくりはすごく大事だなと感じていて、時間が出来たらやろうではなく、日々の積み重ねが大事だと思うので、ちょっとでも習慣化するようなきっかけとかあってもいいのかなと思います。皆さん仕事や子育てしていると時間がない等、色々理由づけは出来ると思うのですが、何かちょっとでも健康づくりに繋がるような若い時期からの取り組みが出来ると健康寿命延伸に繋がるのではないかと思います。この地域ではクリニックが多く開業されていますが、今後の医療機関の継続とかも長生郡市で課題になっていくと思うので、少しでも自分の力でどうにかするという意識づけに繋がればと思います。また、細かいところですみませんが、国保の一人当たりの総医療費が低いって凄いことだと思いますので、国保加入者へのお知らせとか色々なタイミングがあると思いますが、現状をもっと PR しても良いと思いました。

計画とは関係ないところかもしれないですが、子育て支援で町としてもすごく力を入れてらっしゃると思うので、インフルエンザの予防接種も今年度から助成が始まり、そういった身近なすぐ感じられるところも、長期的に積み重ねてやっていって、この町に住んで良かった、繋がりが出来て良かったというような長期スパンの子育て支援も続けていただきたいと思います。

G 委員：私の視点から言いますと、ここに住んでいる皆さんが、一宮町が住みやすい町、住み続けられる町であるかどうか、移住・定住するにあたって魅力的な町かどうかという視点を気にしました。結果として、令和 5 年度分の検証なので、人口の動向や出生率、保育施設、小中学校の子ども数の増減の推移が見たいです。山内委員もおっしゃったことで、健康寿命の延伸ということであれば、町は保健師さんや各関係団体との連携で、介護予防教室であったり、健康体操教室、脳トレーニングだっりのプログラムが皆さんの参加率がよく、数字で出ているので、ここはデータとしてぜひ載せていただきたいと思います。もう少し評価するためのデータが欲しいです。

H 委員：今回 2 回目の出席になります。事前質問の内容をお聞きしたいと思います。まず、基本目標 1 ①サーフィンを軸とした新たな人の流れを創出ということで、先ほど荒木委員がおっしゃったとおり、ステラ釣ヶ崎がもう少し充実した施設になるといいのかなと考えています。現在は土日に少しずつお店も出ているようですが、多くのお店が出店できるように制度構築を図って人が集まる拠点にして欲しい。最終的には、私はまだ諦めていないですが、道の駅を作っていただきたい。農協に勤めていて、色々な方が相談に来ます。一宮町は特産品として、トマト、メロン、梨があります。でも特産品が町内で買えない。やはり拠点を作るのが人の流れになるのかなということで、現実として不可能な点があるとは思いますが、そこをまず整備していかないと、人の流れやインバウンドの人を呼ぶなどに繋がっていかないので、そういったところを強化してもらいたいです。先ほど丸山委員が説明されたプロジェクトは初めて聞きましたが、とても良い取り組みだなと思いました。私が知っている方で、ロールケーキを作っている方ですが、地ビールを作りたい方がいます。現在、町でも地ビールを作った方がいますが、そこにも販路がなく町内でも誰も知らないで、密かに売られているような状況です。やはり拠点が無いから広がらないという形だと思います。また、国の事業で、ローカル 10,000 プロジェクトという、企業と金融機関と町の補助関係を使ってできるものもあると思います。そういったことも模索している中で、私はどうしても拠点とした道の駅ではなくても、そのような店を作っていかないと事業が回らないと感じました。

次に、②防災拠点機能を備えたまちづくり拠点プロジェクトについて、町にお金がないと、いろんな課題が出てきますからそうだと思います。企業誘致が難しいのかどうか私には分かりませんが、新たな新道の駅というかですね、国土交通省の発表にもあったとおり、道の駅は約 6 割が赤字だそうです。その中で、一時避難所を備えた新たな道の駅で国からの補助もそろそろ出てくるようなことも言っていますので、その辺は少し耳を高くしてもらえればと感じています。

③民間活力によるまちづくりということで、町では企業版ふるさと納税を活用するというふうにあります。大いに活用してもらって寄附をいただくには営業が必要ではないのかと考えます。色々と課題が多いので、まとめるには大変だとは思いますが、まずは地元の農産物を売る拠点場所がない町をどうやって魅力ある町にするのかということです。生物文化多様性計画の会議にも出ていますが、一宮町には拠点の場所がない。公民館も新たな公民館になろうかと思いますが、子育て関係で相談する場所も、みんなが集まる場所もない状況。財政的にはピンチだと思いますが、ピンチをチャンスに変えるのも一つの手かと思っています。

次に 2 枚目の基本目標の農業関係で、新規就農者が増えている話がありますが、実際に増えることで人の確保や農地の確保が問題になっている。町では空き家バンクもありますが、新規就農者は、家も作業場もない。アパートに住んで農業やるのは、不可能です。新規で受け入れてないと思いますが、町営住宅がありますよね。例えば 2、3 年ぐらい新規就農者に貸して、その後家を建ててもらおうなど検討してもらえればと思います。

6次産業の話も出ていますが、農家の方々も色々と考えていて、先ほど言った地ビールや暑いところで栽培されているキャッサバというのがあるそうです。やはり観光協会長が言った通り、農業もなかなか作物が作れない。新規のネギ農家が増えていますが、秋冬ネギで本来12月に稼いでいるネギが今ないそうです。暑さで溶けて、出荷できず遅れてしまっている。現在高野菜が高騰しているのはこのことですね。そこで暑さに対応する野菜ということでキャッサバを作って粉にしていらっしゃる方もいます。ですので、6次産業に力を入れてもらえると助かるなと思っています。私の方からは以上です。

I 委員: 千葉大学で健康まちづくり等の研究と社会実装をしております花里と申します。一宮町とはですね、原保育所、一宮小学校、一宮中学校の出身で、高校からは県外に出ていましたが、自分のルーツとして身近に感じています。検証が一つの大きな議題ということで、4つの基本目標の総合評価を自分なりにつけてみますと、基本目標1がCプラスといいですか、やや評価としては改善がされて、2枚目の基本目標2だとBに若干利点があるというふうに感じました。目標3、4は概ねB、Aと言えるかなと思います。基本目標1と基本目標2のギャップを埋めていくということと基本目標2の利点を今後伸ばしていくということが、来年度からの事業の計画には必要なのではないかと感じました。そこでこれまでの委員の皆さんからもご意見いただいていますように、やはり基本目標1のサーフォノミクスと基本目標2の生物・文化・多様性計画のあたりが、一宮町が特にオリジナルとして用いている資源なのかなと感じまして、先ほど内側を磨くという話もありましたが、そういう資源の価値を町民にどう伝えていくかということと、外側としては社会向けにどういうふうブランディングを図っていくかということが今後の課題と感じました。そこで期待をしますのは、基本目標1②のまちづくり拠点プロジェクトです。そちらが町民向けの活動やあるいは社会向けの外側の活動の拠点になるのかなと感じまして、箱物づくりということではなく、ソフトのところをしっかりと作っていく、あるいはそこを強みにしていくということを目指す上でも、やはり拠点となるようなプロジェクトというのは必要ではないかなと感じました。ご意見の中にもコンサルタントを入れて、外の意見も必要ではないかというようなご意見がありましたけれども、今こういう拠点づくりとクラウドファンディングを上手に組み合わせて進めていくような、そういう事業をできる人がだいぶ増えてきているようです。知人の話ですが、奈良県の国宝の仏像がある松林寺というところで資金がなく、仏像をしっかりとしまえないし展示もできないということで、そこに建設コンサルタントとして入って、自分たちで新しいお堂の設計もしますし、レディフォーというところと一緒にクラウドファンディングを行い、日本全国から4000万円集め、改修の原資にしていくということを行っています。事業者の方々にとっては、色々資源がある中で、それをうまくまとめて外にも発信し、外からのお金も入れつつより良い町づくりの拠点になるような、計画があると良いと感じました。先ほど中央公民館の話でもありましたが、この町で進められている事業全体を俯瞰して取りまとめて、議論、検討するような枠組みがあると良いと感じました。

事務局：本日、一宮小学校の岡田委員さんが欠席されていますが、ご意見をいただいているので代読させていただきます。

質問事項ではありませんが、基本目標 3⑤の新たな教育促進、令和 5 年今後の課題・対策における本年度の一宮小学校の取組や成果の一部を簡単に報告します。まず、私は校長としてこのように考えます。地域の子どもたちは、学校を含めたその地域全体で育てたいです。それは、学校が将来の一宮を担う人を育てていると言い換えられると考えるからです。一宮小学校の子には、地域を好きになり、地域のために役立てるという考え方も身につけて欲しいです。一宮小の教育課程では、地域の伝統文化を継承する、前段に位置づく一宮町に触れ、感じ学ぶという活動があります。ICT を活用することや本などから情報を得て、町の産業や社会、歴史、文化を調べ、学んだことを発表します。今年、一宮町をアピールするという視点で発表会を行いました。また、自分たちで町に出向き、お店、事業所を訪問して見学し、働く人にインタビューをしたことを、レポートやオリジナル新聞にまとめました。

総じて子どもたちは一宮町が好きで、誇りを持っていると思います。今年度からコミュニティ・スクールを導入し、保護者、地域、学校が一体となつての取り組みがスタートしました。第 1 回会議の中で、学校の家庭科の学習のミシンやアイロン指導において、指導者 1 名では安全上心配があることから、指導ボランティアについて相談させていただきました。すると、授業ごとのボランティア人数のべて 106 名というたくさんの方のご協力を得られました。このように地域全体が一体となつて、将来の一宮町を支える人材を育てる環境の整備を推進していきたいと考えます。以上です。

議長：ありがとうございました。今、一通り順番にご意見をいただきました。私の方からは後ほど申し上げるとして、まず事務局の方から質問についての回答をよろしく願います。

事務局：委員の皆様、様々なご意見、ご提案等いただきましてありがとうございます。事前にご質問をいただいている委員への回答をさせていただきます。まず 1 点目の基本目標 1、サーフィンを軸とした新たな人の流れの創出の中で、釣ヶ崎海岸に新たな拠点を作って滞在期間を伸ばし、街中と海岸部の人の流れを創出するためにもっとステラ釣ヶ崎を活用した方が良いのではないかとのご質問です。回答としまして、ステラ釣ヶ崎は供用開始前に効果的かつ効率的に集客を図ることを検討しました。しかし、この施設は TOTO の助成金等を活用して建築しているため施設の使用法や貸付等にある程度の制約が生じます。指定管理者制度等の採用が容易にできる施設ではありません。そのため、現在では観光案内施設やトイレ、シャワー等を備えた施設として町が運営し、サーフィン客や訪れる観光客に広くサービス提供を行っているところでございます。今日では、釣ヶ崎海岸を町の観光地点の一つとして盛り上げていくため、レンタルサイクル事業や地域農産物の無人販売事業を実施しています。今後につきましては、これらの事業

について工夫を重ね、事業促進による地域活性化に努めるとともに定期的な朝市などイベント等の開催もできないかというところで、委員からお話があった地域農産物の事業拡大についても今後検討してまいります。

2点目の防災拠点機能を備えたまちづくり拠点プロジェクトとしまして、専門的なコンサルタントを入れて、企業誘致を含め検討していかないと前に進まないのではないかとのご意見ですが、回答としましては、先般、議会においても度々ご質問やご提案をいただいている事項となっておりますが、防災拠点機能を備えたまちづくり拠点プロジェクトにつきましては、令和5年度の内容、実績に記載させて頂いた通り、釣ヶ崎地先の保安林解除及び用地取得の可能性について関係機関と継続協議中です。方向性が見えてきた段階で、川城委員からのご意見にもありました手法等も含め検討していきたいと考えております。現段階では、まず一歩として、用地取得を進めていきます。

次に3点目③民間活力によるまちづくりというところで、企業版ふるさと納税等も活用して営業を含め告知の方法を検討した方がよいのではないかとのご質問でございます。回答としましては、ポータルサイト「企業版ふるさとチョイス」を活用し、広報周知しました。実績の寄附件数は、2件150万円と目標値には程遠い金額でございます。寄附してくださった企業に対しましては、町のホームページ上で企業の紹介やリンクを貼り会社概要への誘導も行っております。企業版ふるさと納税については、制度上、本社が町に無い企業に対しての周知になりますので、他の市町村の事例も参考にしながら、周知、PR方法を検討してまいります。

基本目標2①農林業の振興の中で、空き家バンク制度の充実ということでご意見いただきました。空き家バンク制度の充実については、貸手、売手側と借手、買手側双方の活性化が重要と考えます。貸手、売手側は実績欄に記載があるとおり、固定資産所有者に対する納税通知書にチラシを同封したことで、物件登録につながった案件や町への問い合わせが増える等の認知度向上に一定の成果がありました。令和6年度には、現在実施している空き家実態調査の結果に基づき、空き家と思われる家屋所有者に対して、その家屋の利活用に関するアンケートを実施するとともに、空き家バンク制度のお知らせをする等、引き続き空き家バンク登録物件の増加を図ります。

次に、委員の皆様からいただいたご質問の部分についてお答えいたします。A委員から、来訪者がどれ位いるかということですが、直近の情報で千葉県ホームページに出ているもので、令和4年度の千葉県観光客入込調査報告の数字ですと、約75万人でそのうちのサーフィンをやられる方が74万人ということです。ただ、令和4年度はまだコロナ後でイベントも少ない状況で、現在はもう少しイベント関係が増えている状況だと思います。同年の宿泊者が約3万9千人です。それと町内、町外の割合、レンタルサイクルの動きに関しては、調査を行っていないためお示しできなくご了承いただきたいと思います。

B委員から、今後農業関係の情報は共有させていただきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

C委員から、サーフィン保護区に関して、どのように周知し、進めていくかというこ

とですが、事務局からも少し話があったかと思いますが令和6年11月に住民に向けて、初となる説明会のような形で一宮町魅力発表会を行いました。今後については、来年1月に講演会を予定しており、5つの審査の基準に合わせたワークショップやセミナー、ワークショップ等を行い、周知を広げていこうと考えています。また、中央公民館の複合施設について、サーフィンの文化等も検討したらどうかというご提案もいただきました。来年度4月以降は企画広報課の方で検討したいと思いますので、ご意見として頂戴したいと思います。

D委員から、JRを活用した今後の集客、観光客、関係人口を増やした方がいいということで、ご意見として頂戴したいと思います。

E委員から、住民目線でこの町をどうしていくか、次期計画の際にはご提案をいただけるということで、ご意見として頂戴したいと思います。

F委員から、健康づくり面とホームページの充実ということで、こちらも貴重なご意見として、今後検討させていただきたいと思います。

G委員から、人口の動向推移や色々取り組んでいるプログラムの内容等そういったデータを示した方が良いのではないかとということで、今後の効果検証ではデータでお示しし、分かるように工夫したいと思います。

I委員から、拠点プロジェクトについてのお話と、クラウドファンディングの活用等のご意見をいただきました。ありがとうございました。

町長：事務局からの回答にいくつか補足をさせていただきます。F委員からいただいた健康づくりの若い方が健康づくりの活動を習慣化するきっかけを提供するのはどうかという提案いただきました。実は30代の方の健康診断にお越しいただいた方は非常に少なく私どもの方でもここに課題があるということは強く感じております。何か良い構想というかアイデアがございましたら、ご知識を賜ればと思います。また、G委員もおっしゃっていただいたのですが、国保や介護保険、特別会計は他の市町村に比べて本町は黒字がずっと続いていまして、国保の負担減や介護保険料の引き下げを継続的にここ数年間で行うことができます。そういったことは確かに町民の皆様のご健康なお暮らしをお支えするということが、全体としてはうまくいっているという事だと思います。どういう仕組みでこういう効果が継続的に出ているのか、更なる分析が必要だと思いますが、まず現状をお知らせすることも意味があるのではとおっしゃっていただいたのは、ありがたいことだと存じますので、お二人のご意見を受け取りさせていただきます。

子育て支援のお話で、身近なもの、長期的なもの、その長期的なものも構想が必要ではないかということでもあります。町では、子ども子育て会議というのがありまして、子育ての支援計画を作るのがメインで、あとは毎年の子育て関係の施策がどう展開しているかというのを点検して助言をいただくというのがもう一つの任務ですが、この子ども子育て会議を、もう少し実質的な町の子育て政策の運営に関わる形に改めたいと考えており、会議では支援計画ということで中期的なものを作ってください、そういうときに

お力をご発揮いただくのですが、更には毎年の予算執行の在り方を点検していただくだけでなく、次年度の予算要求にもご関与いただく。その中で住民目線での様々な考え、思いというものを町の施策で現実的なものにしていこうと、先般の会議で私ども執行部の案としてご提案しまして、現有の委員の皆様からご賛同いただきました。また、公園についても協議会を作り、ここで皆様のご意見で、全体としての計画、公園の整備計画を作っただいて、また毎年の整備の方向性もその協議会の方でじっくり議していただくということを考えております。子育ての問題、これは日本中どこでもそうですが、私どもの町にとっても非常に優先度の高い課題です。町民の皆様と一体になって、そして短期的なものも、中期的なものも長期的なものも一緒に作っていけるかが課題だと思いますので、今おっしゃっていただいたことを形にしていきたいと思います。

H 委員からいただいた、町営住宅に暫時新規就農者の方の入居をお認めするのはどうかというご意見であります。老朽化が進んでおり、一旦ご入居いただきますと、ほぼご自身でご退去のご意思を示していただくまでは、ずっとお住まいいただくというのが従来の形でしたので、老朽化した中で新規募集というのが難しいという判断でこれまで来ました。しかし、おっしゃっていただいたように年限を区切ってお住まいいただくということであれば、条件が多少優れなくても双方合意の上ではそういうことも可能かと思えます。これは私どもの方で運用の規則は変えられることだと思いますので、検討させていただきたいと思います。

I 委員からは、防災・経済拠点、それからコミュニティの拠点、こういったものが必要だということで、クラウドファンディングと結びつけてはということで、一つの成功例までご紹介いただきました。これも先ほど事務局から申し上げましたけれども、新しい住民共同の形だと思います。積極的にこれも考えていけると思っております。以上、補足させていただきます。

議長：ありがとうございます。事務局と町長から回答をいただきましたが、回答を踏まえた上で、委員の皆さんからさらに確認しておきたい点や伝えておきたいということがありましたら伺いたいと思いますが、いかがでしょうか。

教育長：私は教育長という立場で色々とお世話になっております。先ほど千葉日報の武内委員からお話があった件で、お話できればと思います。その前提としまして、千葉日報の武内さんには町の文化財講座等、色々足を運んでいただき記事に取り上げていただきました。昨年度、千葉日報を中心に文化財講座や町史編さん講座等 20 数回取り上げていただいたということで、おそらく県下でもこれだけ取り上げていただいているところはないかと、本当に感謝申し上げます。学芸員が中心となり歴史とか文化について深く研究や発表を行っています。こういった活動が評価されて、令和 4 年度には公民館が文部科学大臣表彰を受けたといった経緯もあります。先ほどの公民館を複合施設にするにあたり、サーフィンをどうするのかというお話がありましたが、公民館は学びの施設であり、コミュニティ、それから生涯学習、そういったものが中心になります。

ですが複合施設になれば更にそのようなものが広がってくるのではないかと思います。そういった中で、今までは歴史文化だけの展示でしたが、サーフィン教室みたいなもので、実践を伴わないにしても例えば乗り方を学ぶとか、そういう教室を開くことも可能になるのではないかなと思います。そうしますと、先ほどの人流ではないですが、レンタサイクルだけでなく、例えば今日こういう教室があるからというようなことで、海でサーフィンをしていた人たちがこちらに足を運んでいただき施設で学ぶ。そういう取り組みを発信できると更に広がってくるのかなとお話を伺って感じました。来年度から所管が教育課から企画広報課に変わりますが、意見を伝えつつ更に充実した施設になっていけば良いと思います。それによって若者たちに足を運んでもらう一つのきっかけになればと感じた次第です。

議長：私から少しだけお話させていただければと思います。全体としては、まず個々の取り組みについては練られていて、事業の方向性については、非常に評価できると思います。ただ、個々の捉え方とかあるいは相互の結びつけ方、あるいは成果の出し方という部分で、工夫できるところがあると思いますので、努力されてそれぞれ進めているということを踏まえた上で、今後に向けて何点か申し上げたいと思います。

一つは、行政がいわば直営的にやっている部分ですね。要するに、行政が主導してやっている部分が多すぎると思います。どういうことかというと、行政が税金を使って色々なことをやっていくという部分は、多分これから限界が出てくると思います。計画の中でも民間活力など様々な資源を生かしていくことが記載されていますが、この一つのイメージというのは、先ほどから委員の方も拠点ということをおっしゃられている。言い方を変えれば、プラットフォーム的な場です。それは共通の土俵みたいなもので、要するにいろんな世代、いろんな立場の人たちが一定のテーマについて乗りうる場です。これがやっぱり決定的に足りていないという印象を受けます。だから個々にいろんな思いを持たれている方というのは、町内におられると思います。色々な取り組みもあると思うのですが、なかなか世代が繋がってこなく、立場を超えた繋がりが出てこない。価値観の違う者同士が話し合う場がないというのは、その共通の土俵の部分が少ない。ここをもっと積極的に作っていく。恐らくこれから行政でできることというのは、プラットフォームビルダーというものです。だからこそ、プラットフォームをどんどん行政がいろんな規模感、いろんな形で作って行って、そこにいろんな人たちが集まってきて、いろんな議論を膨らませて、そこからこうお金を集めていこうと、それは寄附なりクラウドファンディングのようなものかもしれないし、企業版ふるさと納税のようなものかもしれないし、いろんなものがあり得るけれども、そういう場を通じていろんな提案が出てくる、いろんなコンセプトが固められていく。そして、必要なお金というのをどんどん集めていく。行政が税金を使ってやるということだけでは限界があると思います。今後は税金を使って補完していくというような立て付けにならざるを得ない。各方面の力、資源というものが引き出されて、結びつけられて、生かされていくような場の設定と橋渡しです。これを徹底的にやっていくのが、これからの行政に問われている大事な

役割だと思っています。

もう一つは、まちづくりにおけるストーリー性の弱さです。例えばサーフォノミクスは非常に一宮ならではのコンセプトが以前から作られていて、すでに色々な動きをされていると思いますがそこをもっと深掘りしていく。先ほど、サーフィンというものが地方創生という意味で地元根付ききれていないと言う意見もありました。そういう意味も含めて、サーフォノミクス、サーフィン文化というものをもっと地域の中に浸透させていくという事が問われてくると思います。それはサーフィンもそうですし、例えば子育て支援では、一宮町で子育てをするということの魅力ってどういうところにあるのかということ積極的に打ち出していけないと、例えば千葉県の54市町村全体を見ても、どのまちも若者の取り合いです。傾向としては千葉中央部とか北西部の方に圧倒的な若者世代が集まっている状況です。そのような中でも、一宮町で子育てをするということがこれだけ魅力的だということを出していけないと、若い人たちが転出してしまふ。先ほど、会議の拡充、実質化ということも町長がおっしゃられていましたが、子育ての在り方に対するものをもっと住民から引き出していくということが必要で、このアイデアも行政の中だけでやっていくのは限界なので、先ほど申し上げたのは、直営だけでなくプラットフォームを作って、子育てプラットフォームみたいなものを大々的に打ち上げて、そこで住民のいろんなニーズであったり、アイデアであったりということを引き上げていく。出来ることから一つ一つ形にしていく。あるいは大学を初めとした様々な専門機関と連携した教育ということが可能であるならば、そういうところにアプローチをしてプラットフォームに入ってきてもらうのが、これから問われていく一つの手法です。町としてどう課題に対応していくのかということだけじゃなくて、プラットフォームを積極的に作って、そこにいろんな資源というものをかき集めて、引き出していく形にして、価値創造的にもものごとを進めていくということが、これからますます問われると思います。

同じように考えていけば、先ほど教育長からの人的資源の循環というお話もありましたけれども、これも一つのストーリー性ですよね。先ほど言ったサーフィンでもそうですが、そういう人たちが町の文化に触れるというストーリーがあれば、サーフィンも地元の文化も両方が結びついてくる。分野を超えたつながりを作っていくのがプラットフォーム的なイメージ。こういう場をどんどん設定していくのが行政の役割で、そこから何が生まれるかは未知数です。行政はそれを案に落とし所を作るということを私はやらない方が良く思っていて、どのような意見や可能性が出てくるかということ、その場に委ねるとするのが民間活力を生かすということの基本的なやり方です。また、違った分野でいうと先ほどから6次化ということも出ています。6次化もアイデア勝負です。県内でも6次化の動きが始まっていますが、各方面をつなぎきれていないということが一つ。それから6次化ということで何をやりたいのか、ストーリーが作りきれていないところで停滞しているところが多いです。一宮町で6次化を進めていくのであれば、どういうストーリーのもとに進めていくのか。先ほど道の駅というお話もありましたが、道の駅で頑張っているのはこの近くで言うと睦沢町。地域産業資源と防災ということ

絡めた道の駅ということをやっ、健康づくりなんかも交えたストーリーを作っ
てやっているといるところがありますし、あるいは香取市であれば、祭りと地域産業資
源、これからは発酵ということをコンセプトにいろいろな動きを始めています。いずれ
にしてもストーリー性をしっかり作っていくということ。その中で、私なりの言い方だ
と、生活スタイル、要するに一宮町で生活するというスタイルにはこんな魅力がある
ということ、全体像として打ち出していけると良いのではないかと。私が一宮町に初め
に来た頃、サーフィンをやられている方から、サーフィンって単なるスポーツではなく、
サーフィンを通じて色々な生活スタイルを作っていくことだと教えていただきました。
例えば、朝早く起きてサーフィンをして、それから仕事に行く方、都内の方に通勤して
いるという方がいらっしやると聞いています。それも一つの生活スタイル。一宮町での
生活スタイルですね。都内の人たちからすれば、全く発想にない一つの生活スタイルで
す。今までのお話だと、サーフィンが観光にシフトしすぎている。もっとここで生活す
るというのは、生活文化とサーフィンというのが絡んで、一宮町でこんなスタイルで生
活できるのに出るといことがもっと見えてくれば、もっと移住者が私は増えていくの
ではないかなという印象を持っています。なので、そういう生活スタイルというところ
もちょっと合わせて考えていくということが、外から見たときの反応というのがやっぱ
り違ってくるのではないかなと。サーフィンの良さというのは、皆さん承知だと思いま
すけれども、外からの人たちから見ると、その魅力というのはどういうふうを受け止め
ればいいのかというのは、まだまだ私は上面に留まっているのではないかと思います。

3 つ目のポイントは広域連携の不足です。これも行政としては難しいということは承
知で申し上げますが、千葉県内で広域連携をやっているところは、ほとんどないで
す。私は今、銚子市や香取市とも関わっていますが、例えば日本遺産の北総四都市とい
って、銚子、香取、成田、佐倉を繋ぐというプロジェクトがありますが、結局横の繋ぎ
が出来なくて、県も主導できていない。各市町村も、それに対応出来ていない。です
が、それなりに予算があるためパンフレットを作って終わっているのが現状です。こう
いうケースは県内のあちこちにあります。

先ほど、環境関係で市川市と一部連携しているという話がありましたが、これも広域
連携の一つです。別に近隣だけじゃなくて、一宮町のメリットと、都市部のメリットと
いうものをまた繋いでいくというのも、ある種のストーリーであって、こういう連携と
いうのはもっと出来てしかるべきではないかと思います。要するに、広域連携でつな
がりを作っていくことで、一宮町の魅力をもっと引き出していくということが必要な
んじゃないかと思います。保護区も同じです。そういう場というものを幅広く作って
いくことで、その繋ぎをうまく果たしてもらえたらと思います。

色々申し上げましたけれども、今の動きというものを丁寧に結びつけていただきた
いということで、捉えてもらえたらと思います。委員の皆さんから頂戴したご意見を
今後につなげていただきたいと思います。そろそろお時間ですので最後に何かございますか。

町長：先生からせつかくおっしゃっていただいたので、短くお話いたします。大勢の方

にお集まりいただき、当事者性を発揮してこの町全体の方向性というのを一緒に作っていく、そういうプラットフォームを行政が作っていく役目、使命があるのではないかという事をおっしゃっていただき、そのとおりだと思います。

先ほどご説明したサーフィン保護区の認定を向けての動きで、私どもが一番そこで不安を覚えているのが、そうしたコミュニティの幅広い皆さんの横の連携によって、そういう理念、町をどうしくというのを共有して作り上げていくということが欠けている。そこで試みをこの1年半位やってきて、かなり成果が見えてきています。ですので、ここでの経験を踏まえて、さらにプラットフォームビルダーとしての自治体の役割、そのことについての認識を固めて、先へ進んでいきたいと思います。

それから、まちづくりにおけるストーリー性の弱さというのについては、私が思ったサーフィンを例に挙げますと、大原さんと稲葉さんは、オリンピックの前ですけど、サーフィンをしていて、最も自分で充実感を感じる時はどういうときですかと伺った時に、すごく上手に乗った時は己が波と一体になって、自分が消えるということをおっしゃっていました。これは未知の世界だなと思ったわけですけど、そういうような、サーフィンの精神的な捉え方とかっていうものを当事者の方からおっしゃっていただいています。行政の私どもは基本的には第三者的なポジションが多いので、例えば子育てもそうですけど、当事者の皆様からこういうところこそ一宮、サーフィンというのは一宮の暮らしで大きな意味がある。子育てについても一宮は、ここは欠けているかもしれないけど、こういうところはすごく良い。そういうのを当事者のお声としていただきながらストーリーを作っていければと思います。

先ほどのプラットフォームの議論と連関するところですけど、私どもの方で作っていたのでは必ずしも実態に即して、外の方にも中の方にも説得力のあるものにならないと思いますので、当事者の方から発信していただくものを受け止めていきたいと思います。

広域連携については、予算が自治体単位で議会の厳しいご審査をいただいて初めて執行されることですので、その中での自己完結が基本的に要求される。難しいことですが、今回、森林環境譲与税の扱いなどをめぐって、市川市とは非常にうまく行き来が始まっています。船橋市とも年来そういう交流があります。都市部との交流というのは更に強めていきたいと思います。

おっしゃっていただいたことは私どももその通りであると思いますので、引き受けてより向上に努めたいと思います。ありがとうございました。

議長：本日は色々ご意見いただきました。町の方でもご検討いただき、委員の皆さんもまた何かあれば事務局にご意見をいただければと思います。時間になりましたので、事務局にお返ししたいと思います。

事務局：関谷議長、議事進行ありがとうございました。また、長時間にわたり、委員の皆様には慎重審議ありがとうございました。以上をもちまして、第1回一宮町まち・ひと・しごと創生有識者会議を閉会いたします。